

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙「みらい」
NO. 4488
24年10月11日(金)
Tel・Fax 095-828-1953
文責 支部書記長

イスラエルのガザ侵攻から一年！ 中東パレスチナでの停戦・和平を

おはようございます。
長崎くんちも終わり、
ようやく秋めいてきまし
た。

世界ではハマスのイス
ラエル襲撃から一年の日
(七日)で、イスラエル
のガザ侵攻から一年が経
った。

この間、ガザ市民の死
者は四万人を超え、状況
はイスラエルがいう「自
衛権の行使」を越え、パ
レスチナ人の
ジェノサイド
(民族浄化だ。

イスラエル
は「文明人と
野蛮人の戦い
である」とし
て、アメリカ
の自衛要請を無視し、国
連の事務総長までを入国
禁止とする暴挙まで行っ
ている。

そもそも五百七十七万人
のパレスチナ自治政府の
国民を絶滅させるなんて、
周辺国に同数のパレスチ
ナ人が難民として存在し、



「私は生きたい
のだ。この火山の地
でなすべきことが
ある。ロトの時代か
ら広島の黙示ま
で・・・」

これは「パレス
チナ詩集」(ちく
ま文庫)にある一
つの言葉だ。

詩人は二〇〇
八年に六七歳で
亡くなったパレ
スチナ人のマフ
ムード・ダルウィーシュ
である。

彼はパレスチナに生ま
れ、イスラエル建国後に
は入獄と亡命の生を生き
た人で、アラブ現代史に
おけるもっとも重要な詩
人である、と本にある。

イスラエル流に言えば、
日々、テロリストを生み
出しているなか、無理が
あろう。
停戦、和平以外に中東
での平和は存在しない。
核戦争前夜を思わせる中
東紛争こそ、世界政治と
戦争の最重要の課題なの
だ。危機は止めなけ
ればならない。



命の偶然を感
ずる。
日である。運

先に書いた
「ロトの時
代」とは旧約
聖書の創世記

の時代である。また「広
島の黙示」とは十三万人
の広島市民を一瞬のうち
に殺した広島原爆に怒る
神の啓示であり、平和を
願う言葉だ。

旧約聖書によれば、遠い
昔、全能の神(ヤハウェ、
ゼウスとも)が人を創る。
しかし、人が神を信じな
いことに怒り、人を
創ったことを後悔
し、人類の絶滅のため、
地球上に雨を降
らせ洪水を起す。
そのとき神を信じ
るノア一家に船を
作らせ、生き延びさ
せる。ノアの箱舟伝説だ。

神話では現在の人類は
その子孫となるが、それ
から永く日々が経ったこ
ろ、また人々が神を信じ
なくなり、驕りだし、天
の神に届く塔を立てよう
とした。それまでの人々
は同じ言葉を話していた
が、神は人の驕りに怒り、
彼らの言葉がお互い通じ
ないようにした。

言葉が通じない人々は
混乱し、バベルの塔の建
設をあきらめ、町を放棄
し、四散した。だからこ
の町をバベル(乱れ)と
呼び、現代の混乱と分岐
対立の始まりとする。

これは創世記からの引
用だが、この時期、生き
残りの子孫であるロトが、
放浪中に賊に襲われ、財
産を奪われるという受難
が起きる。新教では彼は
神の預言者ともなる。



ロトの時代
とは、このこ
ろの人々の受
難の時代で、
ユダヤ・イス
ラエルの民が
放浪を重ねて
いた時代で、
現代の殉難＝核戦争で大

量虐殺を行われた広島は
その共通する事象といっ
たのだろう。

「私は生きたい」とは、
広島、長崎の原爆で殺さ
れた人々の叫びだろうし、
イスラエルにジェノサイ
ド攻撃で虐殺されている
パレスチナ人をさす。



一九四八(昭和二三)
年、国連がパレスチナの
二分割案でイスラエルが
建国される。また一九八
八(昭和六三)年に、先
の分割決議案に基づきパ
レスチナの独立宣言がな
され、独立国家となる。
このときのパレスチナ
国家の独立宣言を書いた
のがこの抵抗の詩人であ
るマフムード・ダルウィ
ーシュである。
彼は広島原爆を想い、
詩に書いた。私たちが遠
い中東の核戦争の危機に
思いをはせ、戦争反対の
声を上げ、イスラエルの
ジェノサイド反対の声を
上げたい。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員が正社員化を。

めげず、均等待遇、なぐさみ差別！

ユニオンは労契法裁判に勝利すべし！

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎の
ホームページはこちら

